

2011年
3月18日(土)

2011年度卒業・修業のつどい

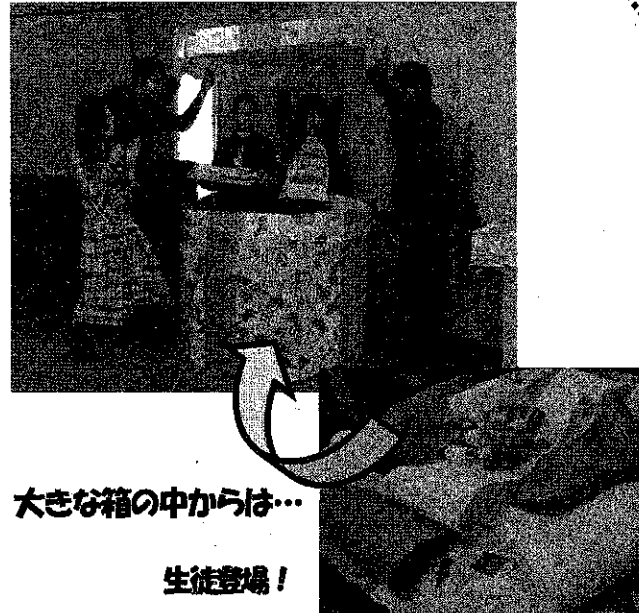
【準備】

卒業アルバム制作班とつどい演出班に分かれ、3学期がスタートしてからすぐに準備を進めてきました。(これらは主に「表現科」にて進行)

アルバム班は個人プロフィール、過去の行事の写真を集めた写真アルバム、アンケートコーナーと、充実した内容となりました。個人プロフィールは質問項目の設定やレイアウトから生徒が担当。一人ひとり、個性が溢れたものが完成しました。写真アルバムでは過去の行事や授業風景の写真から「みんなが均一的に掲載されるように」を合言葉に写真を選択し、大変賑やかなページとなりました。アンケートに掲載する試みは今年が初めてでしたが、話し合いを重ね、「修学旅行で一番楽しんでいた人…」といったランキングを作りました。

つどい演出班は大きなプレゼント箱を制作、中から生徒が出てきてつどいを盛り上げることになりました。箱はダンボールで本体と蓋を作り、その上から包装紙や、大きなリボンをかたどった色画用紙を貼り付けました。その箱の中から生徒が登場する方法も話し合い、手作りケーキ(本物、当日作成)を手にした生徒が登場することに。

何度も登場の仕方を練習し、いざ本番へ!



大きな箱の中からは…

生徒登場!

【つどい第一部】

和やかな雰囲気です「卒業証書」受渡しからスタート。2011年度の卒業生は3名。いずれも男子生徒です。2名は高校進学のため、1名(小6)はご家族の転勤で引越しのためです。卒業生は一人ずつメッセージが異なる証書を吉野法人代表より受け取ります。

その後、会場中央に設置されたマイクで一言、これまでの思い出・これからの決意を述べてくれました。卒業生保護者より一言いただく場面もあり、自由が丘に通いだしてからの変化・これからへの思いを話して頂きました。



引き続き、在校生の「修了証書」受渡しが行われました。在校生へもそれぞれに合わせたメッセージが記載された証書が大塚学園代表より受け取りました。マイクでのスピーチでは、卒業生へお祝いの言葉を贈ったり、今後の決意を語ってくれました。

スタッフ・サポートスタッフからも卒業生・在校生へ思いを語りました。共に楽しい時間も苦しい時も過ごしてきただけに、ここでは皆、胸がいっぱいであったことでしょう。

— b — # — b — # —
こうして、証書受渡しとスピーチがメインであった第一部は終了しました。続いてはお楽しみが一杯! 第二部のスタートです。

【つどい第二部】

まずはつどい演出班制作・プレゼント箱お披露目。中から手作りケーキを持った生徒が飛び出し、卒業生に受け渡す演出は大好評でした。(ケーキは後の交流会にてみんなで頂きました) 続く生徒合唱ではEXILEの「Rising Sun」を発表。ここから生徒による発表タイムが続きます。卒業生2名+在校生1名による特別ユニットによるダンス。在校生1名+生徒バックダンサーズによるソロ曲。どれも緊張していた中、堂々と発表してくれ、会場は大いに盛り上がりました。スタッフも負けじと、坂本九の「見上げてごらん夜の星」をギター演奏と共に歌い上げました。

そして大きな感動の場面である釧路大学生によるメッセージビデオの視聴へ。在りし日の様子が次々と映し出され、懐かしさがこみ上げます。

毎年恒例の大学生全員からの合唱のプレゼントはなんと卒業生3名の様子を描いたオリジナルの歌詞・メロディー!(下記参照)これには全員が驚き、感動しました。その後、スクール卒業生、大学生での卒業生へ花束を受け渡しも行われました。

思ってもよかったです
 作詞:小松礼佳(大塚4年生)
 作曲:古野隆也(大塚3年生、伴奏)

この(箱)の中からは
 贈り物がいっぱい
 夜は静かです
 (略)

昔は僕が描いた大きな箱で
 今もみんなが描いた大きな箱
 (略)

思い出がいっぱい
 (略)

伝えたい言葉はたくさんあるけど
 言えない言葉はたくさんあるけど



笑いも涙も盛りだくさんな内容で3時間半のつどいは終了しました。このつどいはスクール生・スタッフにとってもこれまでの歩みを振り返り、これからへと期待を膨らませる大きな機会です。卒業生も在校生もこれを節目としてまた新たなスタートを切ってもらいたいと切に願います。(寺田・記)

子ども館からも旅立ち

小1から月寒子ども館に通い、この春中学生になるTさん、引越で転校する2年生のMさんを送る、卒業と修業のつどいが3月29日に行われました。

当日は、関わりのあったスタッフやサポートスタッフも集まってくれ、手巻き寿司を食べたり、Tさんの好きなゲーム、モノポリーを楽しんだり(写真左)。その後、仕事帰りの父母の皆さんも駆けつけ、卒業・修業証書を渡すささやかなセレモニーをしました。

証書と一緒に絵のプレゼントがあり、2年生の2人組はお互いが描いた絵を交換(写真右)。2人とも、一番の思い出である子ども館での「お泊まり会」が題材です。Tさんへのプレゼントは私が描きましたが、6年間に関わりのあった子どもたち、大人たちを画用紙に描き込んでいったところ、いつの間にか数十人にふくらんでいました。それでも描ききれなかった皆さん、来館しなくても陰で支えてくださる会員の皆さんがいっぱいです。改めてたくさんの友情と愛情、努力が、子どもたちに注がれていたことを感じました。

旅立つ2人にとって、新しい世界で子ども館の体験が生きることを願っています。新年度の子ども館生は小規模スタートですが、小さくても思い出いっぱい場所になりたいと思います。(鈴木かおり・記)

